ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	保育科　准教授 田　邊　裕　子　（たなべ　ひろこ） TANABE Hiroko
所属	保　育　科
学位	博士（教育学）（東京学芸大学）
資格・免許	小学校教諭二種免許状（東京都教育委員会：平 24 小２種第 74 号） 中学校教諭専修免許状（音楽）（東京都教育委員会：平 23 中専修第 262 号） 高等学校教諭専修免許状（音楽）（東京都教育委員会：平 23 高専修第 294 号）
学歴・職歴	＜学歴＞ 2009 年　３月　国立音楽大学音楽学部音楽教育学科音楽教育専攻　卒業 2012 年　３月　横浜国立大学大学院教育学研究科芸術系教育専攻　修了 2021 年　９月　東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程芸術系教育講座　修了 ＜職歴＞ 2015 年　４月　東京音楽大学大学院　研究支援職員（2020 年３月まで） 2016 年　４月　東京成徳大学子ども学部　兼任講師（2016 年９月まで） 2016 年　４月　東京学芸大学次世代教育研究推進機構　専門研究員（2017 年３月まで） 2017 年　４月　東京学芸大学次世代教育研究推進機構　特命助教（2019 年３月まで） 2019 年　４月　東京学芸大学次世代教育研究推進機構　助教（2021 年３月まで） 2020 年　４月　白梅学園大学　兼任講師（2021 年３月まで） 2020 年　４月　白梅学園短期大学　兼任講師（現在に至る） 2021 年　４月　山梨学院短期大学保育科　専任講師（2023 年３月まで） 2022 年　９月　山梨学院短期大学　教務部長補佐（2024 年３月まで） 2023 年　４月　山梨学院短期大学保育科　准教授（現在に至る） 2025 年　４月　山梨学院短期大学　教務部長補佐（現在に至る）
担当科目	音楽Ⅰ　音楽Ⅱ　音楽ⅢＡ　音楽ⅢＢ　音楽科教育法　保育内容（音楽表現） 基礎演習　卒業演習Ⅰ　卒業演習Ⅱ 社会人基礎力育成講座Ⅰ　社会人基礎力育成講座Ⅱ 音楽科概論（専攻科）　修了研究（専攻科）
専門分野	音楽教育学
現在の研究テーマ	身体技法習得としてみる音楽の学びの原理的研究
競争的資金等の研究課題	音楽科授業における身体的同調を核とした学習・指導法の開発（日本学術振興会科学研究費助成事業　若手研究　2023 年４月～2027 年３月）
所属学会	日本音楽教育学会　日本教科教育学会
メッセージ	子どもたちにとって音楽はとても身近な存在です。特に自分の気持ちを言葉で表現することがまだ難しい乳幼児にとって、音楽は周りの人たちとコミュニケーションを取る重要な手段の一つです。音楽を通して子供たちとたくさんかかわることのできる保育者や教員を目指して、一緒に頑張りましょう！

教育		
2025年４月～2026年３月		
教育方針		子どもと感性を分かち合い、共に感動し、楽しむことのできる音楽性を持つ保育士・教員を養成する。
授業	授業の工夫	＜音楽科教育法＞ 音楽科授業では教師が子供たちの前で範唱や範奏を行う場面が多くあるが、そのときに自信を持って歌ったり演奏したりできるよう、歌唱共通教材の模擬指導やリコーダー演奏試験を一人ずつ行う機会を取り入れた。また、グループごとに行う模擬授業では、学習指導案のアイデアや指導のポイントを全体でシェアして自分の指導の引き出しにするという観点から、低学年・中学年・高学年すべての段階の模擬授業が行われるように、学生の希望と相談しながら振り分けた。 ＜保育内容（音楽表現）＞ ピアノ伴奏を用いた音楽表現については１年次に学習するため、本科目ではその他の音楽表現活動を構想・指導できるよう、わらべうたや教育楽器を用いた活動、音さがし活動や音楽づくり等の紹介や実践をグループワーク形式にて行った。グループで音楽活動をすることにより、他者と協力しながら試したり、考えたり、音を合わせたり、協働して活動を進めていくことをねらった。 ＜音楽科概論＞ 音楽科では様々な音楽や楽曲が教材となり得るため、学生が自分なりに教材化の視点から教材研究することができるよう、教員が解説する講義と学生自身が体験する演習を組み合わせ、どちらかに偏ることなくバランスよく進めていくことで、知識と技能の双方を習得させることを心がけた。
	授業改善のための取組	学生に対し常に新しい知見を提供できるよう、学会や研究会に積極的に参加するとともに、教育現場やワークショップにおける実践観察、現職教員との意見交換の場をできる限り持つように心がけ、研究・実践双方の視点を授業や指導内容に組み込むようにしている。
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	＜卒業演習＞ 卒業演習では、学生一人ひとりが主体的に課題について探究する中で理解を深めることを目指した指導を心がけた。そのために特に、自身の特性や経験、興味・関心に基づいたテーマ設定ができるようにサポートを行った。また、執筆が本格化した時期には個別指導を取り入れ、個人の進捗に応じた助言や、学生がその時に求めている援助を即座に提供できるよう配慮した。また、音楽ゼミという特性を活かし、年度末にはトーンチャイムによる演奏発表を企画した。 ＜修了研究＞ 修了研究では、学生それぞれの経験に根ざした疑問を出発点として、それに関する先行研究や文献等を収集・検討し、研究課題を焦点化させている。その中で研究手法や研究倫理について解説を加え、学生が基本的なアカデミック・スキルズを習得できるようにした。さらにゼミ内で検討会や中間発表の機会を設け、適宜レジュメを作成させるようにし、学生のアカデミック・ライティングやプレゼンテーションの技能の向上を図った。

<table>
<tr><td colspan="3">教育（つづき）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2025 年４月～2026 年３月（つづき）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ゼミ（つづき）</td><td>卒業レポート・
修了研究テーマ</td><td>＜修了研究テーマ＞
・音の出るモノを介した乳児と養育者のコミュニケーション
・玩具の違いによるごっこ遊びへの影響
・学級経営における戦略的アプローチとしての席替え
・外国籍児童に対する学級担任の支援の実際と課題
＜卒業レポートテーマ＞
・コンクールを通してみる吹奏楽の学び
・公立保育園における震災後の防災意識の変化－東日本大震災から学ぶ震災時の保育所の在り方－
・Ｎコン歴代曲の特徴・指導方法の変化－課題曲の変化から考える合唱指導－
・音楽が人にもたらす影響について
・地上波ドラマとサブスクリプション型動画配信サービスにおけるドラマ視聴の変化―若者の視聴行動を中心に―
・実習生の服装の意識について―保育者の服装の意識と比較して－
・幼少期のリトミック経験と保育における活用について―指導者へのインタビューを通して―
・保育現場における音楽指導の実態と保育者としての在り方―保育者へのインタビューを通して―
・SNS によるルッキズムの影響</td></tr>
<tr><td>課外活動</td><td colspan="2">スケート部顧問</td></tr>
<tr><td colspan="3">2025 年３月以前</td></tr>
<tr><td>主な教育業績</td><td colspan="2">・2023 年度
卒業演習で、ゼミ生が親子参加型音楽活動の企画を行い、子育て支援センターで実施した。この活動は山梨学院学生チャレンジ制度に採択された。</td></tr>
</table>

研究		
2025年４月～2026年３月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） インクルーシブ保育における音楽表現活動への音楽療法的視点の援用―児童発達支援センターでの集団音楽療法の観察から― （共著）	2026年　３月	山梨学院短期大学研究紀要　第46巻
（その他：学会発表） This is more than just a hobby: Lifelong music learning as serious leisure （単独）	2025年　７月	2025 Asia-Pacific Symposium for Music Education Research
（その他：学会発表） 身体性からとらえた口唱歌の機能と役割-貫井囃子とバツカーダの口唱歌を事例として- （共同）	2025年11月	日本音楽教育学会第56回大会
（その他：学会発表） フリースクールにおける音楽活動に対する生徒の語り-M-GTAを用いた質的分析- （共同）	2025年11月	日本教科教育学会 第51回全国大会
2025年３月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著　書） よくわかる音楽教育学 （共著）	2023年　２月	ミネルヴァ書房 ＜担当部分＞ Ⅰ-4音楽と身体、Ⅱ-4身体技法習得としての音楽教育、Ⅵ-14郷土芸能、Ⅶ-11台湾、Ⅸ-8研究と実践
（著　書） 2030年の学校教育―新しい資質・能力を育成する授業モデル― （共著）	2021年　６月	明治図書 ＜担当部分＞ 第２章 １．育成すべき資質・能力の定義 ２．研究方法

研究（つづき）		
2025 年３月以前（主なもの）（つづき）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 障害児保育におけるオノマトペ表現の役割と有効性 （共著）	2025 年　３月	山梨学院短期大学研究紀要　第 45 巻
（学術論文） 小学校音楽科における副教材としてのポケット歌集の教育的価値 （共著）	2025 年　３月	山梨学院短期大学研究紀要　第 45 巻
（学術論文） 学生が主体となった親子参加型音楽活動の実践－子育て支援と音楽アウトリーチの視点からみた学びの分析－ （単著）	2024 年　３月	山梨学院短期大学研究紀要　第 44 巻
（学術論文） 「物語に音楽をつけて表現する活動」における学びの経験 （単著）	2022 年　３月	山梨学院短期大学研究紀要　第 42 巻
（学術論文） 音楽する身体の構築過程としてみる音楽の学び－目黒流貫井囃子の身体技法習得過程を対象として－ （単著）	2021 年　９月	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科　博士論文
（学術論文） 音楽教育研究において身体へアプローチすることの重要性：音楽の二項対立パラダイムの超克を目指して （単著）	2019 年　３月	教育デザイン研究　第 10 号
（学術論文） 音楽科教育における「聴く」ことの再考をめざして：カリキュラム史、多文化音楽教育、ポピュラー音楽文化の視点からの示唆 （共著）	2016 年 10 月	学校教育学研究論集　第 34 号

研究（つづき）		
2025年３月以前（主なもの）（つづき）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（その他） 日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック　Ⅱ～フィールドから学び、ともにつくり、地域へつなぐために～ （共同）	2025年　３月	東京音楽大学 ＜担当部分＞ ４.目黒流貫井囃子におけるフィールドワークの経験を通して
（その他：書評） Kirsty Devaney, Martin Fautley, Joana Grow, and Annette Ziegenmeyer 編著『The Routledge Companion to Teaching Music Composition in Schools－International Perspectives－』 （共同）	2024年　８月	音楽教育学（日本音楽教育学会） 第54巻第１号
（その他：学会発表） 共に音楽する身体の構築－能動的な行為原理としての「間」に着目して－ （単独）	2023年10月	日本音楽教育学会　第54回大会
（その他：学会発表） 様式的規範に捉われない即興演奏実践の教育的意義 （共同）	2022年10月	日本教科教育学会　第48回全国大会
（その他：学会発表） 目黒流貫井囃子における身体技法の習得過程：習得の段階性と練習のずれをめぐって （単独）	2020年10月	日本音楽教育学会　第51回大会
（その他：報告） 2030年以降の社会に必要な教育を考える①～③ （単独）	2020年　２月	CREDUON Vol.173～175 （東京学芸大学こども未来研究所）

社会貢献 　産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等
2025 年４月～2026 年３月
・笛吹市子ども・子育て会議　委員
2025 年３月以前（主なもの）
・大学コンソーシアムやまなし「未来の学び」　委員 ・「やまなし未来創造教育プログラム委員会」　委員 ・東京音楽大学文化庁補助事業「伝統を担うフィールドからまなび、ともにつくり、地域へつなぐアートマネジメント人材育成―伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指して―」における「基礎講座」　講師 ・FM 甲府「楽しい子育て」　出演 ・山山山子どもプロジェクト主催研修会　講師 ・山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座（第８回）　講師 ・山梨学院幼稚園　課外教室 Let's Try ミュージック　講師
受賞　※個人、所属団体
―